

大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第4回地域生活部会議事録

文責：渡邊(事務局一部修正)

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第4回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和7年10月28日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	山根 聖子	小野 英次郎	山田 薫
	渡邊 優美	南雲 好晶	相澤 あゆみ	青山 明子
	平井 有希子	広瀬 健次郎	小宮 由季代	
	区事務局：馬場 齋藤 小西 鈴木 オブザーバー：前畑			
(5) 内容・要旨	<p>1. 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認</li> <li>・司会-伊藤部会長 書記-渡邊委員</li> <li>・オブザーバー参加 障害福祉課 前畑 文枝 係長</li> <li>・令和7・8年度自立支援協議会第3回運営会議の報告</li> <li>・大田区自立支援協議会だよりの作成について</li> </ul> <p>(2) 地域生活支援拠点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大田区における地域生活支援拠点事業について 緊急時の受け入れ・対応相談機能</li> </ul> <p>○前畑係長より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の受け入れ、対応について</li> <li>・これまでは施設(ハード)の整備を進めてきた。これからルール・体制(ソフト)の整備が必要。</li> </ul> <p>○グループでの意見交換</p> <p>【対象者について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての障害が対象となるが、重症心身障害の方、医ケアのある方、強度行動障害のある方を中心に考えていく必要がある。</li> <li>・各事業所によって専門性が異なる。受け入れエリア、受け入れ対象者の年齢等によっても分担できると良い。</li> </ul> <p>【緊急時について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から緊急時に備えておくことが必要。「緊急時」をつくらないう、事前の準備が迅速な対応につながっていく。</li> </ul> <p>【ネットワークづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段からできるだけ多くの人とつながり、知り合いを増やすことが大切。短期入所の利用だけでなく家庭委託や特別介護人派遣のサービスを利用するなど部分的なサポートを組み合わせることで、緊急時に対応できる可能性が広がる。(普段から友達同士で自分の子どもの様子について知ってもらい、何かあった際に面倒を見てもらうなど)</li> <li>・相談支援事業所の助言を受けて、福祉サービスに頼ることと、自力で対応できることの棲み分けをしておくが良い。</li> </ul>			

【緊急時の受け入れについて】

- ・重症心身障害の方、医ケアの方を初見で受け入れるのは難しく、どのような薬を飲んでいるのか等確認に手間を要することがある。利用前に事前の相談を行うことが大切。  
→施設側の緊急の受け入れも円滑に進めることができる。
- ・施設側の受け入れが緊急時の加算にあたるかどうか、区の判断を受けることになっている。閉庁日等の対応について明記されていると対応しやすい。
- ・利用者の人数やニーズに合わせて、ベッドを確保したり、建物の構造に関する安全面の整備を図ったりするなど、資源を十分に確保・点検する必要がある。
- ・医ケアのある方の受け入れ先として、地域の中核的な役割を担う区内の医療機関にも協力してもらえると良い。  
→地域生活支援事業で、医療型ショートステイを制度的に展開していくのはどうか。
- ・強度行動障害のある方の支援や医ケアができるヘルパーを確保することが課題。  
→法人全体で研修を進める必要がある。

【緊急時の判断について】

- ・ステイ先に行かなくても在宅でできるケアやフォローがあると便利。宿泊できるヘルパーは少ないため特別介護人派遣など福祉制度をうまく活用できると良い。
- ・利用者目線のフローチャート等あると、どこに頼めばいいのか、緊急の扱いになるのかどうか、夜間はどこに電話をかければよいのか等利用者の判断材料になる。  
→どの制度に当てはまるのか、明確に区別できる資料やデータがあると良い。  
→緊急時に混乱を招かぬよう、父母間であらかじめフローチャートの内容を共有することが大切。  
→フローチャートに頼ってしまい、事前の準備がおろそかになる可能性があるかもしれない。

【施設間の連携、データ管理】

- ・緊急時の受け入れと虐待は分けて考える必要があるが、虐待された子どもを受け入れる際は、児童相談所や子ども家庭支援センターが絡んでくる。個人情報の取り扱いに注意が必要。
- ・施設間で横断的に人材育成していく必要がある。
- ・区が必要なデータを一括管理し、各施設がアクセスできるようなシステムの構築は可能か。
- ・区内施設のキャパシティはどうか。必要に応じて区外の事業所にも協力してもらうか。

2. その他

- ・次回 第5回「地域生活部会」11月25日（火）
- ・次回は、「体験の機会・場」について検討する。